



たいしも通信

最近、気になる記事を見つけたので、少し掘り下げてみます。今回のお題は自衛隊の統合運用についてです。

◆自衛艦隊

自衛艦隊とは海自の主力部隊で、昭和 29 年の防衛庁自衛隊発足と同時に置かれました。艦隊とありますが、潜水艦や水上艦艇だけでなく航空機も含めて機動運用し、日本周辺海域の海上防衛や多様な事態、国際任務等にも対応します。帝国海軍の連合艦隊等に相当する事実上の実戦部門の統括部隊です。

◆航空総隊

航空総隊とは空自の戦闘機部隊および防空戦闘部隊を一元的に指揮・統括する組織で、昭和 33 年に現在の名称となりました。特筆すべきはミサイル防衛については、総隊司令官が内閣総理大臣及び防衛大臣からの「弾道ミサイル等の破壊措置命令」や防衛出動等の行動命令を受け、海上自衛隊のイージス艦をも含めた JMSDF 統合任務部隊の指揮官を兼務します。

◆陸上総隊

平成 30 年、ついに陸自にも陸上総隊が創設されました。直轄専門的部隊を統括するほか、海空自衛隊及び米軍との運用調整を行い、必要に応じて各方面隊の指揮も行います。

設立背景として、海・空と異なり陸自では最上級部隊として各方面隊が並立し、防衛大臣はそれぞれに個別命令を下さなければならず、以前から非効率との指摘があったため、平成 29 年に改正自衛隊法が成立、既存の中央即応集団が廃止され、平成 30 年に総隊設置となりました。創設後、令和元年の台風 19 号により大規模な水害が発生、陸上総隊司令官を指揮官とする初の統合任務部隊が編成されました。

◆統合幕僚監部

陸海空自衛隊を一体的に部隊運用することを目的とした防衛省の特別機関としては、以前から統合幕僚監部がありました。外国の軍隊では統合参謀本部に相当します。

ただし近年、統合幕僚長は、米国における大統領と国防長官の最高軍事補佐スタッフとしての統合参謀本部議長の職務と、武官として軍の最高司令官の立場である統合軍司令官の 2 つの機能を並立させているため、大規模災害や有事の際、2 つの任務に忙殺されてしまう可能性が指摘されており、運用部分を切り離して新たに統合幕僚監部とは別の、常設の「統合司令部」を創設、ポストを新設して部隊運用に専念させ、統合幕僚長を大臣補佐に専念させる構想が持ち上がりました。

いよいよ次が件の報道記事です。

『自衛隊「統合司令部」、本格検討 台湾有事懸念、部隊運用に機動性』

防衛省が新たに陸海空自衛隊の部隊運用を一元的に指揮する統合司令部と、これを支える統合司令部を創設する方針を固め、組織形態や設置場所などの本格的な検討に入ったことが(6月)6日、政府関係者への取材で分かった。中国の海洋進出が強まり台湾有事が懸念される情勢や、宇宙・サイバー・電磁波の安全保障の新領域への対応を念頭に、部隊運用に専念するポストを新設して機動力を高める必要性があると判断した。

政府が年末までに改定する外交・安全保障政策の長期指針「国家安全保障戦略」など3文書にも、統合司令部の創設を盛り込むよう調整を進める。」

▼▼編集後記▲▲

例によって、内容に関する責任は全て支部長にあります。特に規則等に定めているもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。